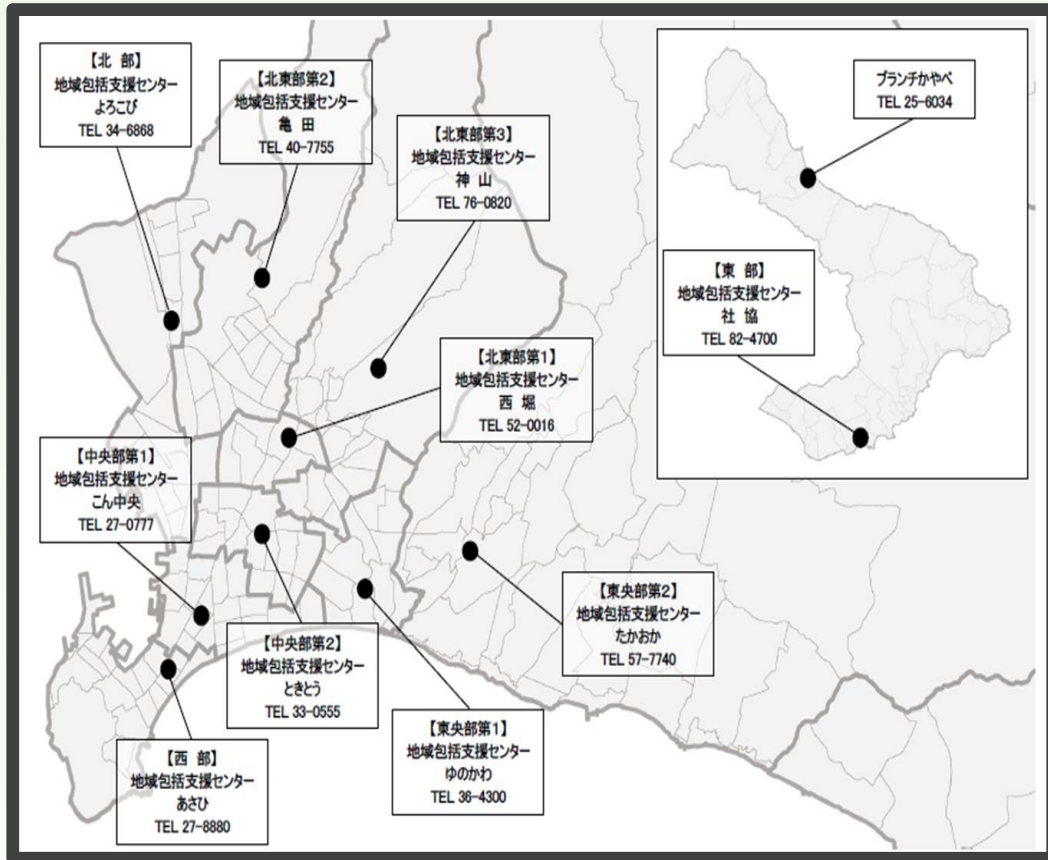


地域課題の検討を行う地域ケア会議 第 2 層生活支援コーディネーターとしての活動 ～地域包括支援センターたかおか～

函館市地域包括支援センターたかおか
社会福祉士 小林 沙貴

【圏域の特徴】



- ・東中央部第2
- ・37町、32町会が存在
- ・面積が広く、同じ圏域でも特徴が違う

(特徴)

- ①根崎町から石崎町までの海岸沿いの地域から山間や高台に位置する漁業や農業に携わることの多い地域
- ②上湯川町や西旭岡町にある巨大な団地群
- ③圏域内に点在する函館市のベッドタウンとして開発された当時の新興住宅街

【日頃の業務から】

- 高齢化や人口減少は進んでいるが、地域の助け合いが残っている地域もある。
 - 見守りNWの活動から、元気高齢者が多いという実態を把握した。
 - 個別訪問時、サークル活動、町会活動に参加している高齢者を把握した。
 - 町会活動、民生委員など高齢化が進んでいるが活動に積極的な役員も多い。
 - 町会数が多く、まだまだ密に関わられていない町会が存在する。
 - どのような社会資源があるか、包括職員自体も把握できていない。
- ◎地域包括ケアシステムなど、制度的なものや仕組み、長時間の会議等に苦手意識を持つ地域柄がある。

重要!

- ①地域住民の動機付け、意識づくり＝土台作り
- ②地域に存在する社会資源の把握

重要!

地域住民の動機付け、意識づくり＝土台作り

【平成28年度】

(開催方法)

- ・圏域を民生委員の方面で3つに分け、同じ内容で実施

(参加者)

- ・民生児童委員
- ・町会/在宅福祉委員
- ・介護保険、高齢者福祉関係の事業所職員
- ・関係機関(函館市役所、函館市社会福祉協議会)



講話

地域住民の動機付け、意識づくり＝土台作り

- ・地域包括ケアシステムとは何か
- ・今何故住民による支え合いが必要か
- ・生活支援コーディネーター/地域支え合い推進員/協議体 とは何か
- ・くらしのサポーター養成講座とは何か
- ・住み慣れた地域で暮らしていく為に何が必要か

+

グループワーク

視点の変換

＝マイナスの話し合いからプラスの話し合いへ

- ・参加者は普段から同じような話し合いをしている→疲弊感
- ・普段あまり意識しない地域のプラス面や地域の強み(地域力)に目を向け、地域の魅力や強みを再発見、魅力や強みを活かした新たな可能性を探る

+

アンケート

ニーズの把握

- ・どのような支え合いがあるのか
- ・どのような支え合いがあったらよいか
- ・どんな事なら出来そうか

重要!

地域住民の動機付け、意識づくり＝土台作り

【平成29年度】

(開催方法)

- ・**圏域全体**で、7月、11月、2月の**合計3回開催**

(参加者)

- ・民生児童委員
- ・町会/在宅福祉委員
- ・介護保険、高齢者福祉関係の事業所職員
- ・関係機関(函館市役所、函館市社会福祉協議会)

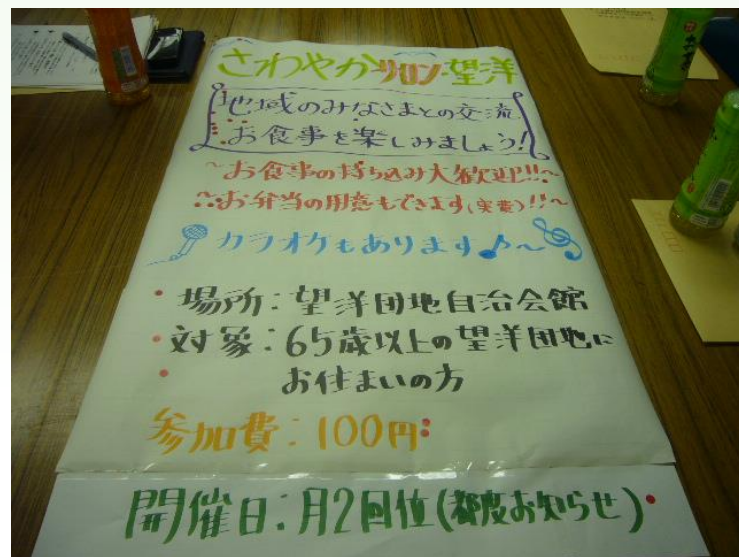
(第1回)



(第2回)



(第3回)



グループ
ワーク

・
情報共有

グループワーク
アンケート

講話

・
情報提供

「助け合い」を考える/創設する

地域課題の発見・共有・同意

ニーズの把握

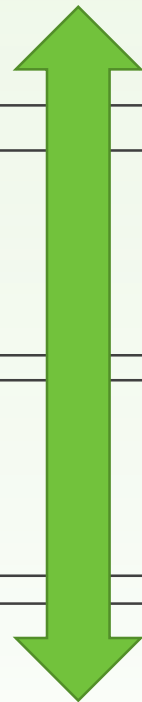
重要!

地域住民の動機付け、意識づくり＝土台作り

会議設定時間を徐々に延ばす

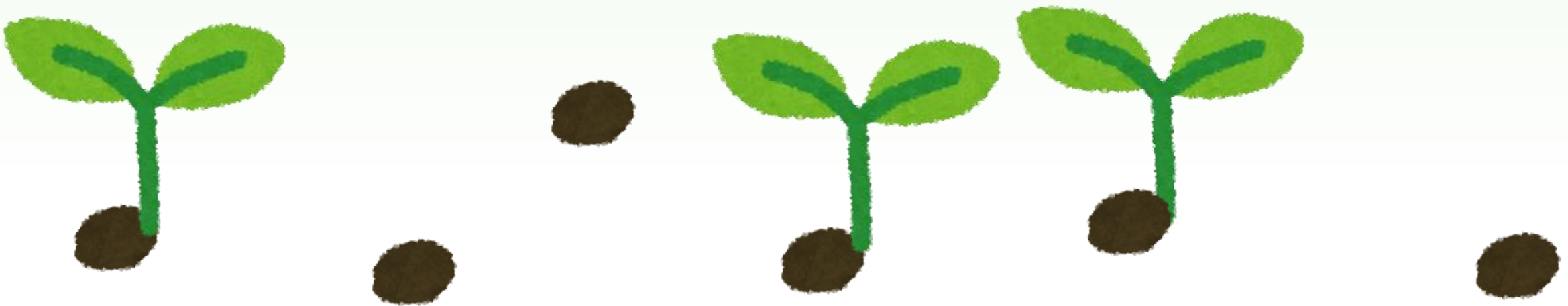
平成28年度～ 社会福祉協議会

平成29年度～ 第1層コーディネーター



小さな芽

- ある町会から、「自分の地域でも見守り活動をしてみたい」という声があがった。
- ケア会議で同テーブルになった、事業所と町会がつながる。
結果、事業所が地域に出向き行う、町会館での体操教室の開催に繋がった。
- ケア会議に出席した事業所がボランティアを探しており、社会福祉協議会とつながり、ボランティアの受け入れの話がすすんでいる。



重要!

①地域住民の動機付け、意識づくり＝土台作り

→地域住民による「集まりの場」や「助け合い」の果たす役割が大きくなることについての認識が深まる

重要!

②地域に存在する社会資源の把握

- ・地域の助け合いが残っている
- ・元気高齢者が多い
- ・サークル活動、町会活動、その他の活動が存在
- ・地域の活動に積極的な町会が多い
- ・社会資源はありそうだが把握できていない
- ・高齢化、単独での活動が難しくなっている
- ・ボランティアとのマッチングの必要性
- ・事業所も地域で活動したいという意欲、思いがある



重要!

②地域に存在する社会資源の把握

→「活動ガイド」の作成。

【平成30年度】

(開催方法)

- ・圏域を民生委員の方面で**3つに分け、同じ内容で3回実施**

(参加者)

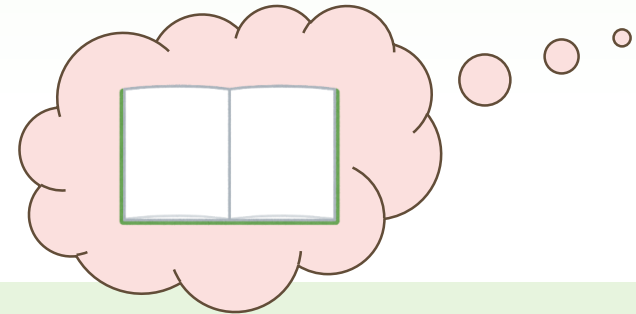
- ・民生児童委員
- ・町会
- ・在宅福祉委員→**(変更)在宅福祉委員長に直接案内を送付**
- ・介護保険、高齢者福祉関係の事業所職員
- ・関係機関(函館市役所、函館市社会福祉協議会)
- ・**老人クラブ→新しく案内する**

わが町の **“活動ガイド”** 作りませんか？

○皆さんが暮らす町で行われている
助け合いや**見守り** **交流の場**

○福祉の仕事に携わる皆さんが
地域や**高齢者に向けて**行っている**様々な活動**や**支援**

町の活動をお聞かせ頂き、
“活動ガイド” としてまとめたいと考えています。

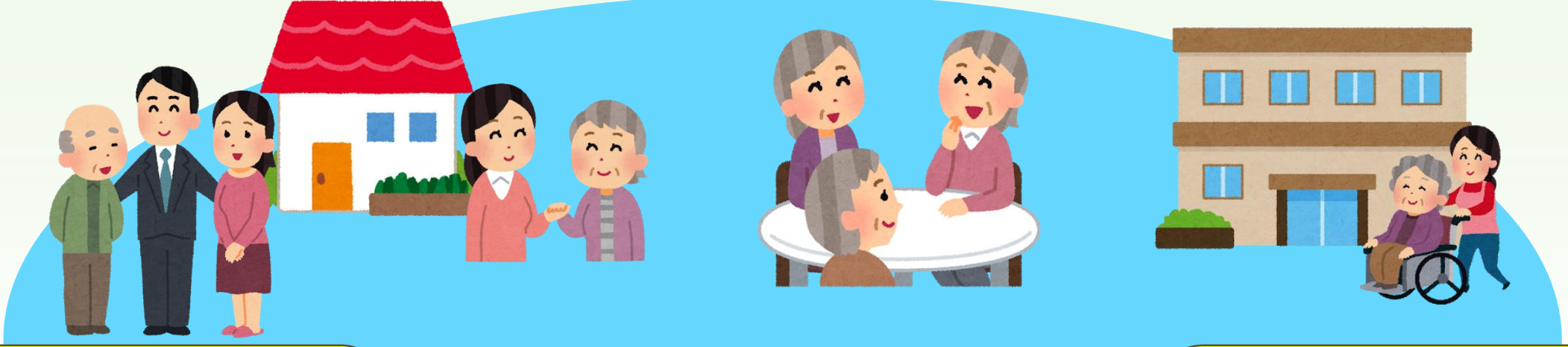


“活動ガイド” に期待すること

- 住人やケアマネジャーが町の活動や取り組みを知る → 住人と地域がつながる
- 福祉事業所と地域活動の連携
- 他の町の活動を参考に、活動を育てる・始める

現在、進行中・・・

いくつになっても住み続けられる
地域づくりを目指して・・・



包括支援センター
“活動ガイド”



函館市生活支援
コーディネーター
丸藤さん



社会福祉協議会
「くらしの
サポーター」



『地域で 始める・進める・育てる』

まとめ・・・

○地域には様々な課題が存在する

→地域包括ケアシステムが必要

→住民が自分たちの事として捉えられるかが大切

→地域住民の動機付け・意識づくり＝土台づくりが必要

→**数年で結果が見えるものではなく、根気強く継続して行い続ける**

→小さな芽がやがて大きな木になることを信じて活動

(課題)

- ・課題を発見した際に第2層コーディネーターだけでは対応できない課題やネットワーク構築がある